



第655号

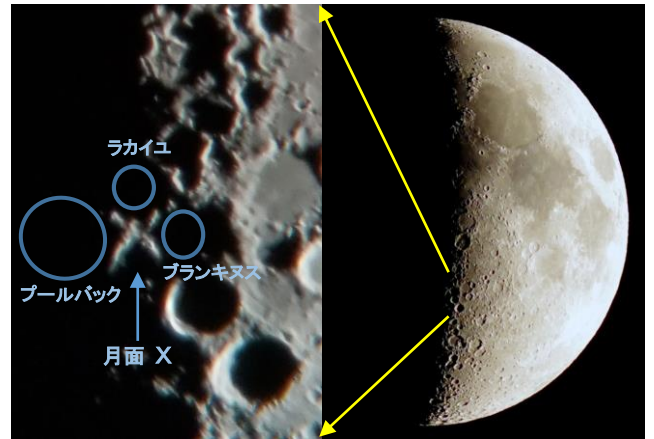
令和3年8月1日

# ジオスペース館だより

## ★ 今月の星もよう ★

写真は当館プラネタリウム解説員が撮影

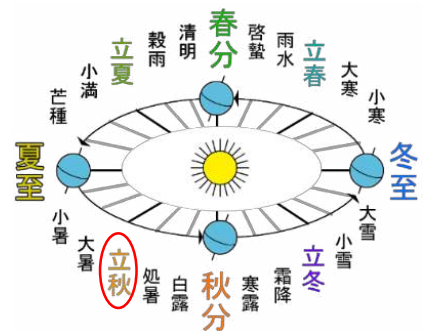
正式な天文用語ではありませんが、最近、天文ファンの間で「月面 X」という現象が話題になっています。名前から分かるように、月面に「X」という文字に見える影ができるという現象です。いつでも見られるわけではありませんが、今年は2月と4月と6月に既に1度ずつ確認されていて、間もなく8月15日（日曜日）の午後8時半頃にも見られると予想されています。残念ながら肉眼で見えるほどには大きくありませんが、見える場所さえ分かれば、倍率が20倍程度の望遠鏡でも観測が可能とのこと。綺麗に「X」の文字のように見えるのは約1時間程度だそうですが、写真を撮りながら観測するぐらいの余裕は十分にあります。



さて、謎めいたメッセージのような「月面X」ですが、その正体は、ブランキヌス、ラカイユ、プールバックと呼ばれる3つのクレーターの壁によってできた地形に、ある一定の角度から太陽の光が当たると浮かびあがる月面の反射光です。その角度から太陽光が当たるのは、上弦の半月の頃だということが分かっているので、あらかじめ「月面X」が見える日時も予想できるのです。もし、今月の観測を逃しても、今年は、10月13日（水曜日）の午後8時頃と12月11日（土曜日）の午後10時頃の2回チャンスがあるので、ぜひ、観測に挑戦してみてください。

## ★ 二十四節気・8月7日は《立秋》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。8月上旬の節気は《立秋》と呼ばれ、毎年8月7日頃になります。《立秋》とは、秋が立つ（秋が始まる）という意味ですが、この頃はまだまだ夏の真っ盛り、暑い日が続きます。しかし、耳を澄ませば秋の虫が鳴きはじめ、秋空に見られる「うろこ雲」も現れ、日の入りも早くなるなど、秋の気配を感じはじめる季節です。



二十四節気と、太陽と地球の位置関係

## ★ 8月はペルセウス座流星群が極大！

今年のペルセウス座流星群は8月13日の明け方4時頃に極大となります。普段よりも多くの流星が見えるようになるのは4～5日前の夜からで、12日の夜中から13日の明け方にかけて、たくさんの流星を見ることができます。今年はこの時期、新月から間もないため、月明かりの影響がほとんどなく、観察には絶好の条件です。街から離れた暗い空では、1時間あたり最大50個ほどの流星が予想されています。流星は、放射点を中心に放射状に出現しますが、空全体に現れるため、いつどこに出現するのかわからないので、なるべく空の広い範囲を見わたすように観察しましょう。



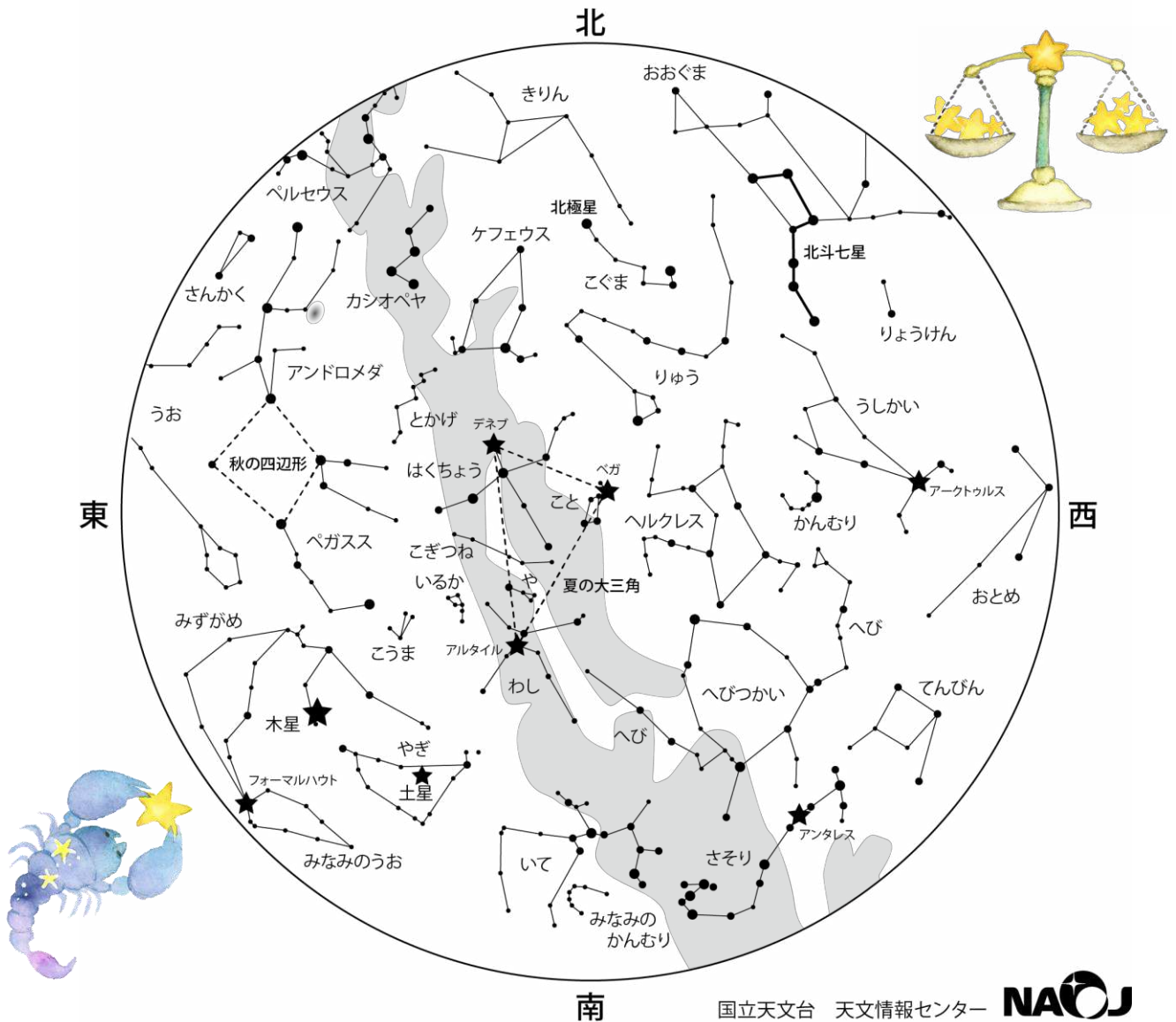
★ 8月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 8/2(月)、6(金)、7(土)、10(火)、16(月)、18(水)、23(月)、30(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。



# 8月上旬午後9時30分頃の星空



## ★ 8月上旬の主な天文現象

|        |           |        |              |
|--------|-----------|--------|--------------|
| 2日(月)  | 土星が衝      | 13日(金) | ペルセウス座流星群が極大 |
| 7日(土)  | 立秋        | 14日(土) | 伝統的七夕        |
| 8日(日)  | ● 新月      | 15日(日) | 月面 X が見える    |
| 11日(水) | 細い月と金星が接近 |        |              |

## ★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 8/1~15) ※ 下記時刻は、予想値です

- ◇ 8月1日(日) [見やすさ ◎] 20:10 北北西 ~ 20:14 東
- ◇ 8月3日(火) [見やすさ ◎] 20:12 北西 ~ 20:16 南南東
- ◇ 8月4日(水) [見やすさ ◎] 19:24 北西 ~ 19:31 東南東
- ◇ 8月6日(金) [見やすさ ◎] 19:27 西北西 ~ 19:33 南南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。  
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。